

桂林寺

この禅寺は、13 世紀から 16 世紀中頃に都留を支配した小山田氏の寺として設立されました。この寺は 1390 年代に、格智禅師が臨済宗の教えを広めるためにこの地に訪れました。小山田富春は、格智禅師の徳によって、臨済宗に改宗し、桂林寺を創設しました。小山田家の墓はこの寺の敷地に現在も残っています。

本堂に通じる石段の頂上には、有名な彼岸桜が生えています。格智自身がここに植えたと言われています。その樹齢と歴史的な重要性から、この都市の文化財に指定されています。本堂裏の丘には小さな池があり、「叶が池（かのうがいけ）」と呼ばれています。この名前は、雨乞いに來た人々の願いは奇跡的に叶えられたことから名付けられました。